

2017年度 小教区評議会役員研修会報告

- テーマ：教会を見る
- 目的：①講話と振り返りによって、自分の教会の姿を見つめる
②自分の見つめた教会の姿を互いに分かち合う
- 対象：ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区評議会役員
- 日時：2017年5月13日（土） 10：30～15：30
- 場所：カトリック京都司教区 河原町教会・ヴィリオンホール
- 参加人数：77名（信徒71名、司祭5名、修道者1名）
- 講師：菅原友明神父（京都教区）
- 内容：午前：講話「教会を見る」 午後：分かち合い、全体会

講話要旨（菅原友明師）

聖書は「いつ、どこで、だれが、何をした」という形で起こった出来事をそのまま物語っていることから、私たちが同じように、考えたり、語ったりする前にまず教会について「そのまま見る」「そのまま聞く」ということをしてみたいと思う。それは解釈したり評価したりすることではなく、子どもたちのように見ることである。「いつ、どこで、だれが、何をした」ということを「そのまま見る」ことは、真理から離れることはない。そのようなまなざしで自分の教会を見る、ということは聖書の黙想と似ている。今日はこの講話と分かち合いを通して、自分の教会について「そのまま見る」ことを試みてほしい。

分かち合い

12グループに分かれ、菅原師の講話から以下の内容をテーマに分かち合いを行った。

1. 教会の何を見たのか
 2. 役員をやっている動機は何か
 3. これからも役員を続けたいか
- 午前中の講話の中でも数分間考え、振り返る時間があり、それを踏まえて午後の分かち合いへと進んだ。特にテーマ2と3は話しやすい内容であったため各グループ率直な分かち合いが行われたようだった。

大塚司教のコメント

「役員をしている動機」という問いはきっかけだけではなく、「なぜ続けているのか」というモチベーションに関する問いである。それを突き詰めるとやはり自分の信仰や教会につながっていくのではないか。イエスが弟子たちを選んだのは、「その人にとって良かれと思い」その人だから選んだのであって、他の人と比較して選んだのではない。役員に選ばれたことをそのような視点で見ることで気づきがある。

福音宣教企画室の振り返り

今回は講話だけでなく、午後の分かち合いや全体会も講師である菅原師にコーディネートしていただき、全体を通して一貫性のある研修会となった。今年のテーマである「教会と福音宣教の理解」を新たな視点で展開することができたので、秋の役員交流会では現場に即した内容を企画していきたい。

2017年5月16日作成
福音宣教企画室